# 特許協力条約に基づく国際出願

## 願

書

出願人は、この国際出願が特許協力条約に従って処理されることを請求する。

Hec'd 要理	PCIPTO 03 SEP 2004
国際出願番号	D-04506669
国際出願日	05, 3, 03
(受付印)	受領印

出願人又は代理人の書類記号 03-005WO (希望する場合、最大12字) 第 I 欄 発明の名称 生分解性繊維質成形体の製造方法 第Ⅱ欄 出願人 この欄に記載した者は、発明者でもある。 氏名(名称)及びあて名:(姓・名の順に記載;法人は公式の完全な名称を記載;あて名は郵便番号及び国名も記載) 電話番号: 三日月ナプラス企業組合 (0791)78-0114 MIKAZUKI NAPLAS KIGYOKUMIAI ファクシミリ番号: 〒 679-5154 (0791)78-0137 日本国兵庫県揖保郡新宮町鍛冶屋711番地 加入電信番号: 711, Kajiya, Shingu-cho, Ibo-gun, Hyogo, 679-5154, Japan 出願人登録番号: 国籍(国名): 日本国 **JAPAN** 住所(国名): 日本国 JAPAN この欄に記載した者は、次の すべての指定国 ✔ 米国を除くすべての指定国 米国のみ 追記欄に記載した指定国 指定国についての出願人である: 第Ⅲ欄 その他の出願人又は発明者 氏名(名称)及びあて名:(姓・名の順に記載;法人は公式の完全な名称を記載;あて名は郵便番号及び国名も記載) この欄に記載した者は 次に該当する: 大日本製薬株式会社 出願人のみである。 DAINIPPON PHARMACEUTICAL CO., LTD. 〒541-8524 出願人及び発明者である。 日本国大阪府大阪市中央区道修町2丁目6番8号 6-8, Dosho-machi 2-chome, Chuo-ku, Osaka-shi, Osaka, 541-8524, 発明者のみである。 ににレ印を付したときは、 Japan 以下に記入しないこと) 出願人登録番号: 国籍(国名): 日本国 JAPAN 住所(国名): 日本国 **JAPAN** この欄に記載した者は、次の すべての指定国 ✔ 米国を除くすべての指定国 追配欄に配載した指定国 指定国についての出願人である: ✔ その他の出願人又は発明者が統葉に記載されている。 第IV欄 代理人又は共通の代表者、通知のあて名 次に記載された者は、国際機関において出願人のために行動する: ✔ 代理人 共通の代表者 氏名(名称)及びあて名:(姓・名の順に記載;法人は公式の完全な名称を記載;あて名は郵便番号及び国名も記載) 電話番号: (048)832-1244 9524 弁理士 坂口 嘉彦 SAKAGUCHI Yoshihiko ファクシミリ番号: 〒336-0002 (048)832-1261 日本国埼玉県さいたま市北浦和1丁目13番5号 加入電信番号: サニーハイツ浦和202号室 202, Sanii Haitsu Urawa, 13-5, Kitaurawa 1-chome, Saitama-shi, 代理人登録番号: Saitama, 336-0002, Japan | 通知のためのあて名:代理人又は共通の代表者が選任されておらず、上記枠内に特に通知が送付されるあて名を記載している場合は、レ印を付す。

様式PCT/RO/101 (第1用紙) (2001年3月版)

		2			161	
•••	 •••	 	 •••	 •••	昗	

第Ⅲ欄の続き その他の出願人又は発明者						
この続葉を使用しないときは、この用紙を願書に含めないこと。						
氏名(名称)及びあて名:(姓・名の順に記載; 法人は公式の完全な名称を記載	設;あて名は郵便番号及び国名も記載)	この欄に記載した者は 次に該当する:				
田中 清一 TANAKA Kiyokazu 〒 679-5154 日本国兵庫県揖保郡新宮町鍛冶屋711番地	出願人のみである。 ✓ 出願人及び発明者である。					
711, Kajiya, Shingu-cho, Ibo-gun, Hyogo, 679	-5154, Japan					
	•	発明者のみである。 (ここにレ印を付したときは、 以下に記入しないこと)				
		出願人登録番号:				
<sup>国籍(国名)</sup> : 日本国 JAPAN	<sup>住所(国名)</sup> : 日本国 JAPA	.N				
この棚に記載した者は、次の   すべての指定国   米国   米国	を除くすべての指定国 🗸 米国のみ	追記機に配載した指定国				
氏名(名称)及びあて名:(姓・名の順に記載;法人は公式の完全な名称を記載	載;あて名は郵便番号及び国名も記載)	この欄に配載した者は 次に該当する:				
		出原人のみである。				
		LLINE 1 TL YVVV DRAMANA Z				
		出原人及び発明者である。				
		発明者のみである。 (ここにレ印を付したときは、 以下に記入しないこと)				
		出願人登録番号:				
国籍(囯名):	住所(国名):					
この欄に記載した岩は、次の 指定国についての出願人である: すべての指定国 米国	を除くすべての指定国 米国のみ	追記欄に記載した指定国				
氏名(名称)及びあて名:(姓・名の順に配載;法人は公式の完全な名称を記載	蔵;あて名は郵便番号及び国名も記載)	この欄に記載した岩は 次に該当する:				
		仏に該当りる:				
		出願人及び発明者である。				
		発明者のみである。 (ここにレ印を付したときは、 以下に記入しないこと)				
		出願人登録番号:				
国籍(国名):	住所(国名):					
この欄に記載した者は、次の 指定国についての出願人である: すべての指定国 米国	を除くすべての指定国 米国のみ	追配欄に配載した指定国				
氏名(名称)及びあて名:(姓・名の順に配載; 法人は公式の完全な名称を配針	散;あて名は郵便番号及び国名も記載)	この欄に記載した者は 次に該当する:				
		出願人のみである。				
		出願人及び発明者である。				
発明者のみである。 (ここにレ印を付したときは、 以下に記入しないこと)						
		出願人登録番号:				
国籍(国名):	住所(国名):					
この欄に記載した者は、次の 指定国についての出願人である: オペての指定国 米国	を除くすべての指定国 米国のみ	追記欄に記載した指定国				
その他の出願人又は発明者が他の統葉に記載されている。	·					

第V欄 国の指定 (該当する口にレ印を付すこと;少なくとも1つの口にレ印を付すこと)。 規則 4.9(a)の規定に基づき次の指定を行う。ほかの種類の保護又は取扱をいずれかの指定国(又は OAPI)で求める場合には追配欄に配載する。 広域特許 図AP AR I P O特許:GHガーナGhana, GMガンピアGambia, KEケニアKenya, L SレソトLesotho, MWマラウイ Malawi, M Z モザンピーク Mozambique, S D スーダン Sudan, S L シエラ・レオネ Sierra Leone, S ススワジランド Swaziland, T スタンザニア United Republic of Tanzania, UGウガンダ Uganda, ZMザンビア Zambia, 乙 W ジンバブエ Zimbabwe,及びハラレプロトコルと特許協力条約の締約国である他の国(他の種類の保護又は取り扱いを求める場合 には点線上に記載する)...... 図EA ユーラシア特許:AMアルメニアArmenia,A ZアゼルバイジャンAzerbaijan,B YベラルーシBelarus, K G キルギスタン Kyrgyzstan, K Z カザフスタン Kazakhstan, MDモルドヴァ Republic of Moldova, R Uロシア Russian Federation, T J タジキスタン Tajikistan, T Mトルクメニスタン Turkmenistan, 及びユーラシア特許条約と特許協力条約の ヨーロッパ特許: A Tオーストリア Austria, B EベルギーBelgium, B Gブルガリア Bulgaria, C H and L I Z E P スイス及びリヒテンシュタイン Switzerland and Liechtenstein, C Yキプロス Cyprus, C Zチェコ Čzech Republic,D E ドイ ツGermany, DKデンマークDenmark, EEエストニアEstonia, ESスペインSpain, FIフィンランドFinland, FR フランス France, GB 英国 United Kingdom, GR キリシャ Greece, IE アイルランド Ireland, I Tイタリア Italy, LU ルクセンブルグ Luxembourg, M Cモナコ Monaco, N L オランダ Netherlands, P Tポルトガル Portugal, S E スウェーデン Sweden, S I スロヴェニア Slovenia, S Kスロヴァキア Slovakia, T R トルコ Turkey, 及びヨーロッパ特許条約と特許協力条 約の締約国である他の国 回 O A P I 特許: B F ブルキナ・ファソ Burkina Faso, B J ベナン Benin,C F 中央アフリカ Central African Republic, C G コンゴ Congo, C I コートジボアール Côte d'Ivoire, C Mカメルーン Cameroon, G A ガボン Gabon, G Nギニア Guinea, G Q赤道ギニア Equatorial Guinea,G Wギニア・ビサオ Guinea Bissau,M L マリ Mali,M R モーリタニア Mauritania,N E = ジェール Niger, S Nセネガル Senegal, T Dチャド Chad, T Gトーゴ Togo, 及びアフリカ知的所有権機構のメンバー国で あり特許協力条約の締約国である他の国(他の種類の保護又は取り扱いを求める場合には点線上に記載する)....... 国内特許(他の種類の保護又は取り扱いを求める場合には点線上に記載する) ☑ N Z ニュー・ジーランド New Zealand 図A Eアラブ首長国連邦 ☑ G E グルジア Georgia..... □ G Hガーナ Ghana ...... United Arab Emirates ..... ☑A Gアンティグア・バーブーダ □ GMガンビア Gambia ☑ ○Mオマーン 0man ☑ P Hフィリピン Philippines..... Antigua and Barbuda 回HRクロアチア Croatia ...... ☑ P L ポーランド Poland..... ☑ A Lアルバニア Albania ...... ☑ H UハンガリーHungary...... □ P Tポルトガル Portugal..... □ AMアルメニアArmenia..... ☑ I Dインドネシア Indonesia ☑ R Oルーマニア Romania □ A Tオーストリア Austria..... ☑ I LイスラエルIsrael..... □ R Uロシア Russian Federation..... ☑ I NインドIndia..... ☑ A Uオーストラリア Australia..... ☑ S Cセイシェル Seychelles □ A 乙アゼルバイジャン Azerbaijan ☑ I Sアイスランド Iceland □ S Dスーダン Sudan J P 日本 Japan..... ..... □ S E スウェーデン Sweden ☑ B Aボスニア・ヘルツェゴヴィナ Bosnia □ K E ケニア Kenya ...... ☑ S G シンガポール Singapore and Herzegovina..... □ K Gキルギスタン Kyrgyzstan..... □ S Kスロヴァキア Slovakia..... 図BBバルバドスBarbados ☑ K P 北朝鮮...... □ S L シエラ・レオネ Sierra Leone Democratic People's Republic of Korea □ B Gブルガリア Bulgaria..... □ T J タジキスタン Tajikistan ☑ B R ブラジル Brazil..... 区KR韓国Republic of Korea..... □ TMトルクメニスタン Turkmenistan □ B Yベラルーシ Belarus ...... □ K Z カザフスタン Kazakhstan..... ☑ B Zベリーズ Belize..... ☑ L Cセント・ルシア Saint Lucia...... ☑ T N テュニジア Tunisia 図 C Aカナダ Canada ☑ L Kスリ・ランカ Sri Lanka □ T R トルコ Turkey..... ☑ L Rリベリア Liberia □ C Hand L I スイス及びリヒテンシュタイン ☑ T Tトリニダッド・トバゴ Switzerland and Liechtenstein □ L S レソトLesotho..... Trinidad and Tobago ..... ☑ C N中国 China..... ☑ L Tリトアニア Lithuania □ T Ζ タンザニア..... ☑ C ○コロンビア Colombia □ L Uルクセンブルグ Luxembourg United Republic of Tanzania ☑ C R コスタリカ Costa Rica..... 図 L Vラトヴィア Latvia ☑ ℧ A ウクライナ Ukraine..... ☑ C ひキューハ\* Cuba....... ☑MAモロッコ Morocco..... □ U G ウガンダ Uganda..... □ C Z f = □ Czech Republic..... □MDモルドヴァ Republic of Moldova ☑ U S 米国 United States of America ロDE ドイツ Germany..... □DKデンマーク Denmark..... ☑MGマダガスカル Madagascar ..... ☑ U Z ウズベキスタン Uzbekistan..... 図DMドミニカ Dominica ☑MKマケドニア旧ユーゴスラヴィア ☑ ∨ Cセント・ヴィンセント及びグレナ ☑ D Z アルジェリア Algeria..... 共和国 The former Yugoslav Republic of ディ・ン 諸 島 Saint Vincent and the ☑ E Cエクアドル Equador..... Macedonia ..... □ E E エストニア Estonia..... 図MNモンゴル Mongolia □MWマラウイ Malawi..... □ E Sスペイン Spain...... ☑ Y Uユーゴスラヴィア Yugoslavia....... □ F I フィンランド Finland...... ☑ M X メキシコ Mexico..... ☑ Z A南アフリカ共和国 South Africa □M Zモザンビーク Mozambique ....... □ G B 英国 United Kingdom ☑ G D グレナダ Grenada ☑ N OノルウェーNorway □ Z Mザンピア Zambia □ Z Wジンバブエ Zimbabwe..... 以下の口は、この様式の施行後に特許協力条約の締約国となった国を指定するためのものである。 指定の確認の宣言: 出願人は、上配の指定に加えて、規則 4.9(b)の規定に基づき、特許協力条約の下で認められる他の全ての国の指定を行う。但し、追記欄にこの宣言か

指定の確認の食者:出願人は、上記の指定に加えて、規則 4.9(b)の規定に基づき、特許協力条約の下で認められる他の全ての国の指定を行う。但し、追記欄にこの宣言から除く旨の表示をした国は、指定から除かれる。出願人は、これらの追加される指定が確認を条件としていること、並びに優先日から 1 5 月が経過する前にその確認がなされない指定は、この期間の経過時に、出願人によって取り下げられたものとみなされることを宣言する。(指定の確認は、指定を特定する通知の提出と指定手数科及び確認手数料の納付からなる。この確認は、優先日から 1 5 月以内に受理官庁へ提出しなければならない。)

	4		-
	7		目

第VI欄 優先権主	張		•	
以下の先の出願に基づ	く優先権を主張する:			
先の出願日	先の出願番号		先の出願	
(日. 月. 年)		国内出願: パリ条約同盟国名又は WTO 加盟国名	広域出願:*広域官庁名	国際出願:受理官庁名
05.03.02	特願 2002-058140	日本国 Japan		
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				
他の優先権の主	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	記載されている。		
ことを、受理官庁(日本国	優先権(1) 優先権		无権(4) <b>医</b> 先権(5) <b></b>	その他は追記欄参照
表示しなければならない	、(規則 4.10(b)(ii)):			
記載。)		2以上の国際調査機関が国際調査を	実施することが可能な場合、い	ずれかを選択し二文字コードを
ISA/JP				
先の調査結果の 出願日(B.		君査の照会(先の調査が、国際駅 出願番号	葛査機関によって既に実施又は! 国名(又は広域官庁	
第VII欄 申立て				
この出願は以下の申ろ	立てを含む。(下記の該当	する欄をチェックし、右にそれぞれ	の申立て数を記載)	申立て数
第VII欄(i)	発明者の特定に関	関する申立て	:	
第VII欄(ii)	出願し及び特許る 出願人の資格に関	と与えられる国際出願日 関する申立て	における :	
第四欄(iii)	先の出願の優先村 出願人の資格に関	雀を主張する国際出願日 過する申立て	における	
第四欄(iv)	発明者である旨の (米国を指定国と	•	:	·
第VII欄(v)	不利にならないB て	<b>県示又は新規性喪失の例</b>	外に関する申立:	

性式PCT/RO/101 (第3用紙) (2002年7月版)

	_				
	o			囯	

第1X欄 照合欄;出願の言語						
この国際出願は次のものを含む。 (a) 紙形式での枚数  顧客(申立てを含む) 5 枚	この国際出願には、以下にチェックしたものが孫付されている。	数				
明細杏(配列表または配列表	1. 上 手数料計算用紙	:1_				
に関連する表を除く) ··· 21 枚 請求の範囲····· 3 枚	<ul><li>✓ 納付する手数料に相当する特許印紙を貼付した書面</li><li>✓ 園際事務局の口座への振込を証明する書面</li></ul>	:1_				
		:1				
要約書·······		:1_				
小計 34 枚	3. 包括委任状の原本	:				
配列表····································	4 包括委任状の写し(あれば包括委任状番号)	:				
配列表に関連する表・・・・・・・・・・・・・・・・・ 枚	5. 1 18名押印(署名)の欠落についての説明書	:				
(いずれも、紙形式での出願の場合はその校数 コンピュータ銃み取り可能な形式の有無を問わない。	6	:				
<i>下記(C)参照)</i> 合計 34 枚	7. 国際出願の翻訳文(翻訳に使用した書語名を記載する):	:				
(b) コンピュータ読み取り可能な形式のみの	8. 寄託した微生物又は他の生物材料に関する書面	:				
(	9. コンピュータ読み取り可能な配列表 (媒体の種類と枚数も表示する)					
(i) 配列表 (ii) 配列表に関連する表	(i) 規則 13 の 8 に基づき提出する国際調査のための写し (国際出願の一部を構成しない)	:				
(C) コンピュータ読み取り可能な形式と同一の	(ii) (左樹(b)Ġ)又は(C)Ġ)にレ印を付した場合のみ) 規則 13 の 3 に基づき提出する国際調査のための写しを含む追加的写し	:				
(実施細則第 801 号(a)(ii)) (i) 配列表	国際調査のための写しの同一性、又は左楣に配敷した配列表を含む写しの同一性についての陳述音を託付	: <u></u>				
(ii) 配列表に関連する表	10. コンピュータ読み取り可能な配列表に関連する衰(媒体の種類と枚数も表示する) 実施細則第802号bの4に基づき提出する国際調査のための写し	:				
媒体の種類 (フレキンプルテ゚ィスク、CD-ROM、CD-R、その他)   と枚数	(国際出願の一部を構成しない) (左根の)(i) アは(C)(i) にレ印を付した場合のよ)	:				
配列表	(ii) 実施細則第802号bの4に基づき提出する国際調査のための写しを含む追加的写し	:				
	(iii) 国際関金のための与しの同一性、又は左欄に配載した、配列表に関連した表を合む写しの同一性についての原述書を添付					
要約 要約 をともに 提示する 図面: 図 1	本国際出願の言語: 日本語					
第X欄 出願人、代理人又は共通の代語を入の氏名(名称)を記載し、その次に押印する。	表者の記名押印 					
坂口嘉彦 「屋崎子」 「山山寺」 「宝売古」						
1 国歌山區 1 了想出来的大学练习在第一个	受理官庁記入欄	7				
1. 国際出願として提出された書類の実際の受理の日 						
3. 国際出願として提出された香類を補完する杏面又は図面であってその後期間内に受理されたものの実際の受理の日(訂正日)						
4. 特許協力条約第11条 (2) に基づく必要な補完の期間内の受理のB						
5. 出願人により特定された 国際調査機関 I S A / 調査手数料未払いにつき、国際調査機関に 調査用写しを送付していない。						
国際事務局記入欄						
## DOT (DO (101 (B& BW) (000 CT - DW)						

#### 明 細 書

#### 生分解性繊維質成形体の製造方法

### [技術分野]

本発明は生分解性繊維質成形体の製造方法に関するものであり、特に、植物性 5 繊維質粉体と植物性結合剤粉体とを混合し、これに水を添加した後、成形することを特徴とする生分解性繊維質成形体の製造方法に関するものである。

#### 〔背景技術〕

これまでの、化学合成品を原料にしたプラスチックは、成型が自在で、強く、 大量生産が可能で利点も多くあるが、その廃棄の際、土壌中で生分解されず、 10 また、燃やした場合にはダイオキシン等の有害物質が発生する等の社会問題を ひきおこしている。最近では、産業廃棄物は自然にやさしいもの、例えば、廃 棄物が土壌中で細菌などにより自然分解したり、燃やしてもダイオキシン等の 有害物質が発生しないものが求められている。 そのようなものとして、生分 解性プラスチックの製造技術が知られている。

- 3糖類等のハイドロコロイドを主原料にして製造された生分解性プラスチックとして、例えば、澱粉と合成プラスチック等とを主原料としたもの(化学と生物Vol. 33, No. 3, 159~166頁, 1995年)(バイオサイエンスとインダストリーVol. 52, No. 10, 795~800頁, 1994年)、セルロースとキトサンとを主原料としたもの(化学と工業Vol.
- 20 43, No. 11, 85~87頁, 1990年) が知られている。

特表平11-504950号公報には、繊維強化し、澱粉結合した細胞マトリックスを有する工業製品であって、該細胞マトリックスは澱粉系バインダー、無機骨材充填材、および該澱粉結合した細胞マトリックス内で実質的に均一に分散した繊維を含み、該繊維の平均アスペクト比は約25:1以上で、無機骨25 材充填材の濃度は該澱粉結合した細胞マトリックスに対し約20重量%以上で、且つ該澱粉結合した細胞マトリックスの厚さは約1cm以下であり、また該澱粉結合した細胞マトリックスは水に長時間浸けると劣化することを特徴

とする工業製品が記載されている。

特開2001-342354号公報には、少なくともこんにゃく粉と植物性 繊維の粉体と水とを混合して混練し、これを所望の型に流しこんだ後に、加圧 加熱成形することを特徴とする成形品の製造方法が記載されている。

#### 5 〔発明の開示〕

10

15

多糖類等のハイドロコロイドを主原料にして製造された生分解性プラスチックには、化学合成品を原料にしたプラスチックに比べ製造コストが著しく高いという問題がある。特表平11-504950号公報の工業製品には、原材料である繊維質の寸法が大きく、原材料に混合する水分量が多いので、射出成形による大量生産に適さないという問題がある。特開2001-342354号公報の生分解性繊維質成形体の製造方法には、加圧加熱成形なので大量生産に適さないという問題がある。

本発明は上記問題に鑑みてなされたものであり、生分解性繊維質成形体を安価に大量生産することが可能な生分解性繊維質成形体の製造方法を提供することを目的とする。

本発明においては、植物性繊維質粉体と、澱粉粉体とガム質粉体の混合物である植物性結合剤粉体とを混合し、当該混合物と水を混合して植物性繊維質成形材料を形成し、当該植物性繊維質成形材料を成形することを特徴とする生分解性繊維質成形体の製造方法を提供する。

植物性結合剤粉体として、澱粉粉体とガム質粉体との混合物を使用すると、射出成形法における射出時に或いは射出成形法と同様の射出工程を有するインジェクションプレス成形法等における射出時に、好適に流動化して型に隙間なく充填可能な成形材料を、植物性結合剤粉体として澱粉粉体のみを使用する場合に比べて、水の混合量を抑制しつつ得ることができる。当該成形材料を成形した生分解
 性繊維質成形体は、水分含有量が少ないので脱型後の乾燥時間が短い。従って、本発明に係る方法によれば、生分解性繊維質成形体を安価に大量生産することができる。

本発明に係る方法で製造された植物性繊維質成形体は、合成樹脂を全く含まず、自然環境下で生分解されて土壌と一体化して土壌成分となる。また、容器リサイクル法下においても、一般廃棄物として処理可能である。

ガム質の配合割合は、植物性結合剤粉体総重量中の15%以下とするのが望ましい。ガム質の配合割合が15重量%を超えると脱型時の離型性が低下する。

5

25

本発明においては、植物性繊維質粉体2~17重量部と植物性結合剤粉体1重量部とを混合し、当該混合物3~9重量部と水1重量部とを混合して植物性繊維質成形材料を形成し、当該植物性繊維質成形材料を成形することを特徴とする生分解性繊維質成形体の製造方法を提供する。

10 植物性繊維質粉体 2 ~ 1 7 重量部と植物性結合剤粉体 1 重量部とを混合し、当該混合物 3 ~ 9 重量部と水 1 重量部とを混合することにより、射出成形法における射出時に或いは射出成形法と同様の射出工程を有するインジェクションプレス成形法等における射出時に、好適に流動化して型に隙間なく充填可能な成形材料を、得ることができる。当該成形材料は水分含有量が少ないので、当該成形材料を、得ることができる。当該成形材料は水分含有量が少ないので、当該成形材料に企業がある。 2 を成形した生分解性繊維質成形体も、水分含有量が少なく脱型後の乾燥時間が短い。従って、本発明に係る方法によれば、生分解性繊維質成形体を安価に大量生産することができる。

当該成形材料を成形することにより、生分解性繊維質成形体を安価に大量生産することができる。

20 本発明に係る方法で製造された植物性繊維質成形体は、合成樹脂を全く含まず、 自然環境下で生分解されて土壌と一体化して土壌成分となる。また、容器リサイ クル法下においても、一般廃棄物として処理可能である。

植物性結合剤粉体1重量部に混合される植物性繊維質粉体の重量部が2未満であると、成形体が金型に強く付着して脱型が困難になる。植物性結合剤粉体1重量部に混合される植物性繊維質粉体の重量部が7を超えると、成形体の強度が低下する。水1重量部に混合される植物性繊維質粉体と植物性結合剤粉体との混合物の重量部が3未満であると、成形体の強度が低下して脱型時に支障を来す可能

性があり、水1重量部に混合される植物性繊維質粉体と植物性結合剤粉体との混合物の重量部が9を超えると、成形材料の流動性が低下して型に隙間無く充填するのが困難になる。

植物性繊維質粉体として、木,草,葉,籾殻,米糠,果実皮,コーヒー豆抽出 
5 残渣等毒性の無いあらゆる植物性繊維質素材の粉体又はこれらの混合粉体を使用 
することができる。

植物性結合剤粉体として、毒性の無い澱粉粉体、ガム質粉体、又はこれらの混合物体を使用することができる。

植物性繊維質粉体と植物性結合剤粉体と水とを混合して得られた成形材料に、 10 天然物由来の着色料や脂溶性成分等を添加しても良い。

本発明に係る方法で得られる生分解性繊維質成形体として、包装トレー、箸や椀等の食器類、食品原材料容器、照明器具類、装飾品類、敷物類、玩具類、家具調度品類、履き物、灰皿、植木鉢、文房具類、運動用具類、自動車内装品、建材等が挙げられる。

15 本発明の好ましい態様においては、植物性結合剤粉体は、澱粉粉体である。

澱粉粉体は安価に且つ大量に入手できるので、植物性繊維質成形体を安価に大量生産するのに適している。

澱粉粉体として、小麦粉澱粉,馬鈴薯澱粉,コーンスターチ,ワキシーコーンスターチ,ハイアミロース澱粉,サゴ澱粉,タピオカ澱粉等毒性の無いあらゆる 20 澱粉の粉体またはこれらの混合粉体を使用することができる。

本発明の好ましい態様においては、植物性結合剤粉体は、澱粉粉体とガム質粉体との混合物である。

植物性結合剤粉体として、澱粉粉体とガム質粉体の混合物を使用すると、射出成形法における射出時に或いは射出成形法と同様の射出工程を有するインジェクションプレス成形法等における射出時に、好適に流動化して型に隙間なく充填可能な成形材料を、植物性結合剤粉体として澱粉粉体のみを使用する場合に比べて、水の混合量を抑制しつつ得ることができる。当該成形材料を成形した生分解性繊

維質成形体は、水分含有量が少ないので脱型後の乾燥時間が短い。従って、本発明に係る方法によれば、生分解性繊維質成形体を安価に大量生産することができる。ガム質の配合割合は、植物性結合剤粉体総重量中の15%以下とするのが望ましい。ガム質の配合割合が15重量%を超えると脱型時の離型性が低下する。

本発明の好ましい態様においては、ガム質は、水溶性多糖類である。

5

15

ガム質、特に水溶性多糖類である水溶性ガム質は、澱粉の糊化を促進し生分解性繊維質成形材料の流動化を促進して加工性を向上させると共に、植物性繊維質粉体が形成する成形品の主要構造を強化する。

本発明の好ましい態様においては、水溶性多糖類は、キサンタンガム,タマリ 10 ンドガム,ジェランガム,カラギーナン,プルラン,グアーガム,ローカストビーンガム,タラガム,ペクチン,アルギン酸および寒天から選ばれる1種又は2 種以上である。

キサンタンガム,タマリンドガム,ジェランガム,カラギーナン,プルラン, グアーガム,ローカストビーンガム,タラガム,ペクチン,アルギン酸、寒天等 の水溶性多糖類を使用することができる。これらは単独で使用しても良く1種又 は2種以上を混合して使用しても良い。

本発明の好ましい態様においては、水溶性多糖類は、キサンタンガムおよびタマリンドガムから選ばれる1種又は2種である。

水溶性多糖類としてキサンタンガム又はタマリンドガムまたはこれらの混合物 20 を使用することにより、射出時の好適な流動性と脱型時の好適な離型性とに特に 優れる成形材料が得られる。キサンタンガムとタマリンドガムとの混合物を使用 する場合には、タマリンドガムの配合割合を水溶性多糖類総重量中の70%以下 とするのが好ましい。

本発明の好ましい態様においては、植物性繊維質粉体の粒度は60~200メ 25 ッシュである。

植物性繊維質粉体の粒度を60メッシュ以下とすることにより、成形工程での型開き時の植物性繊維の膨張爆発を防止することができる。他方、植物性繊維を

200メッシュ未満の粒度まで粉砕するには、多大な設備と手間とが必要であり、 成形体の量産を阻害する。

本発明の好ましい態様においては、植物性繊維質粉体の含水率が4~20重量%である。

- 5 上昇空気流とサイクロン集塵機とを使用して植物性繊維質粉体から粒度が60~200メッシュの植物性繊維質粉体を効率良く分級することができる。含水率が20重量%以下の植物性繊維質粉体は、上昇空気流とサイクロン集塵機とを使用する分級に適している。植物性繊維質粉体の含水率を4重量%未満にするには、多大な設備と手間とが必要であり、成形体の量産を阻害する。
- 10 本発明の好ましい態様においては、含水率が40~50重量%の植物性繊維質素材を150~180℃のスチームで洗浄殺菌し、加圧脱水し、加熱乾燥し、衝撃荷重を加え粉砕して、含水率が4~10重量%の植物性繊維質粉体を形成し、当該植物性繊維質粉体を、外気から遮断した環境内で、上昇空気流に混入して分級し、次いでサイクロン集塵機に導いて分級して、粒度が60~200メッシュで含水率が4~10重量%の植物性繊維質粉体を得る。

150~180℃のスチームで洗浄殺菌することにより、植物性繊維質素材が 殺菌されると共に、植物性繊維質素材内の酵素の作用が停止され、植物性繊維質 素材の自然色が維持される。この結果、衛生的で且つ植物性繊維質素材の自然色 が残存する成形体の製造が可能となる。

- 20 自然乾燥させた植物性繊維質素材の含水率は40~50重量%である。乾燥時間の短縮と省エネの観点から含水率40~50重量%の植物性繊維質素材を加圧脱水した後に加熱乾燥するのが望ましい。含水率40~50重量%の植物性繊維質素材を直接加圧して脱水するには多大のエネルギーと時間とを要するが、スチームで洗浄殺菌して含水率を60~75重量%まで増加させた後に加圧すると、少ないエネルギーで且つ短時間で含水率約35重量%まで脱水することができる。
  - 少ないエネルヤーで且り短時間で含水率約33量量がまで脱水することができる。 含水率が40重量%以上の植物性繊維質素材を加熱乾燥するには長時間を要する が、含水率約35重量%まで脱水した植物性繊維質素材は、加熱乾燥により、含

水率約10重量%まで短時間で脱水することが可能である。含水率約10重量%の乾燥した植物性繊維質素材を、加熱乾燥により更に脱水するには長時間を要するが、衝撃荷重を加え粉砕して植物性繊維質素材を微粒子化し且つ粉砕によって発熱させることにより、短時間で含水率4~10重量%まで脱水することが可能である。

5

10

15

25

粉砕して得た含水率が4~10重量%の植物性繊維質粉体を、上昇空気流に混入して分級し、次いでサイクロン集塵機に導いて分級して、2段階の分級を行い、且つ上昇気流の流速、上昇距離、サイクロン集塵機の仕様等を適正値に設定することにより、粒度が60~200メッシュの植物性繊維質粉体を効率良く得ることができる。含水率が4~10重量%の植物繊維質粉体を、外気から遮断した環境内で分級することにより、分級工程での植物繊維質粉体の加湿を防止することができる。

本発明の好ましい態様においては、含水率が40~50重量%の植物性繊維質素材を150~180℃のスチームで洗浄殺菌し、加圧脱水し、衝撃荷重を加え粉砕して、含水率が10~20重量%の植物性繊維質粉体を形成し、当該植物性繊維質粉体を、外気から遮断した環境内で、上昇空気流に混入して分級し、次いでサイクロン集塵機に導いて分級して、粒度が60~200メッシュで含水率が10~20重量%の植物性繊維質粉体を得る。

150~180℃のスチームで洗浄殺菌し、加圧脱水して得られた含水率約3 20 5重量%の植物性繊維質素材を、衝撃荷重を加え粉砕して植物性繊維質素材を微 粒子化し且つ衝撃荷重による粉砕によって発熱させることにより、短時間で含水 率10~20重量%まで脱水することが可能である。

粉砕して得た含水率が10~20重量%の植物性繊維質粉体を、上昇空気流に 混入して分級し、次いでサイクロン集塵機に導いて分級して、2段階の分級を行い、且つ上昇気流の流速、上昇距離、サイクロン集塵機の仕様等を適正値に設定 することにより、粒度が60~200メッシュの植物性繊維質粉体を効率良く得 ることができる。含水率が10~20重量%の植物性繊維質粉体を、外気から遮 断した環境内で分級することにより、分級工程での植物繊維質粉体の加湿を防止することができる。

本発明の好ましい態様においては、含水率が40~50重量%の植物性繊維質素材を衝撃荷重を加え粉砕して含水率が10~20重量%の植物性繊維質粉体を形成し、当該植物性繊維質粉体を、外気から遮断した環境内で、上昇空気流に混入して分級し、次いでサイクロン集塵機に導いて分級して、含水率が10~20重量%で粒度が60~200メッシュの植物性繊維質粉体を得る。

5

10

15

25

自然乾燥させた含水率が40~50重量%の植物性繊維質素材を、衝撃荷重を加え粉砕して植物性繊維質素材を微粒子化し且つ衝撃荷重による粉砕によって発熱させることにより、短時間で含水率10~20重量%まで脱水することが可能である。

粉砕して得た含水率が10~20重量%の植物性繊維質粉体を、上昇空気流に 混入して分級し、次いでサイクロン集塵機に導いて分級して、2段階の分級を行い、且つ上昇気流の流速、上昇距離、サイクロン集塵機の仕様等を適正値に設定 することにより、粒度が60~200メッシュの植物性繊維質粉体を効率良く得 ることができる。含水率が10~20重量%の植物繊維質粉体を、外気から遮断 した環境内で分級することにより、分級工程での植物繊維質粉体の加湿を防止す ることができる。

本発明の好ましい態様においては、含水率が40~50重量%の植物性繊維質 20 素材を磨り潰して、粒度が60~200メッシュで含水率が4~20重量%の植物性繊維質粉体を得る。

含水率が40~50重量%の植物性繊維質素材を、空気流中で刃とメッシュとの間の微少隙間へ導き、メッシュと刃を相対平行移動させ、前記刃により前記植物性繊維質素材を剪断すると共にメッシュの小径穴に押し込んで磨り潰し且つメッシュのエッジで剪断する。メッシュの小径穴サイズを順次減少させつつ前記剪断と磨り潰しとを繰り返すことにより、空気流中で植物性繊維質素材が微粒子化されると共に発熱して乾燥する。この結果、粒度が60~200メッシュで含水

率が4~20重量%の植物性繊維質粉体が得られる。

5

15

本発明の好ましい態様においては、植物性繊維質成形材料を60~130℃の 温度で成形する。

植物性繊維質成形材料の温度が60℃未満であると、澱粉が糊化せず、植物性繊維質成形材料の流動性が低下して充填不足を引き起こす。最悪、成形機ノズルから植物性繊維質成形材料が射出されない場合もある。植物性繊維質成形材料の温度が130℃を超えると、成形機ノズルからの水蒸気噴出量が増加し、キャビティーの端部にガスが溜まり充填不足を引き起こす。

成形温度が $6.0 \sim 1.3.0$   $\mathbb{C}$  の低温なので、加工エネルギーが少ないという利点 10 がある。

本発明の好ましい態様においては、植物性繊維質成形材料を予備成形すること なく、最終成形する。

本発明に係る植物性繊維質成形材料は、適度の粘度と適度の流動性とを備えて おり、射出成形機のスクリューによって確実に搬送されるので、スクリューによ る搬送性を高めるための顆粒化等の予備成形を要さない。従って、本発明に係る 植物性繊維質成形材料を粉体のまま射出成形機で最終成形することができる。

本発明においては、植物性繊維質粉体と、澱粉粉体とガム質粉体との混合物である植物性結合剤粉体と、水との混合物であることを特徴とする生分解性繊維質成形材料を提供する。

20 本発明においては、植物性繊維質粉体と植物性結合剤粉体と水との混合物であって、植物性結合剤粉体の重量が植物性繊維質粉体の重量の1/7~1/2であり、水の混合量が混合物総重量の10~25%であることを特徴とする生分解性 繊維質成形材料を提供する。

上記組成の生分解性繊維質成形材料は水分含有量が少ないので、当該成形材料 25 を成形した生分解性繊維質成形体も、水分含有量が少なく脱型後の乾燥時間が短い。従って、上記組成の成形材料を使用することにより、生分解性繊維質成形体を安価に大量生産することができる。上記組成の成形材料は、射出成形や射出成

形と同様の射出工程を有するインジェクションプレス成形等に好適である。上記 組成の生分解性繊維質成形材料を押出成形やトランスファー成形や加熱加圧成形 に使用することも可能である。

#### 「図面の簡単な説明〕

15

5 図1は、本発明の実施例に係る生分解性繊維質成形体の製造方法の工程図である。

図2は、本発明の実施例に係る生分解性繊維質成形体の製造方法で使用されるホッパーの断面図である。

図3は、本発明の実施例に係る生分解性繊維質成形体の製造方法で使用される
10 スチーム洗浄機の断面図である。(a)は側断面図であり、(b)は横断面図であ
る。

図4は、本発明の実施例に係る生分解性繊維質成形体の製造方法で使用される 絞り機の断面図である。

図5は、本発明の実施例に係る生分解性繊維質成形体の製造方法で使用される 乾燥機の断面図である。(a)は側断面図であり、(b)は横断面図である。

図6は、本発明の実施例に係る生分解性繊維質成形体の製造方法で使用される 粉砕機の断面図である。

図7は、本発明の実施例に係る生分解性繊維質成形体の製造方法で使用される 分級機の構成図である。

20 図 8 は、本発明の実施例に係る生分解性繊維質成形体の製造方法で使用される 粉砕機の変形例の斜視図である。

[発明を実施するための最良の形態]

本発明の実施例に係る生分解性繊維質成形体の製造方法を説明する。

図1に示すように、自然乾燥により含水率が40~50重量%に低下した木、 25 草、籾殻、果実皮等毒性の無い植物性繊維質素材をホッパー1に投入する。図2 に示すように、ホッパー1は本体11と、本体11内で水平に延在する軸部材1 2とを備えている。軸部材12には多数の攪拌腕13が取り付けられている。軸 部材12はモーター14により回転駆動される。軸部材12の回転に伴って回転する攪拌腕13によりほぐされた植物性繊維質素材がホッパー1から落下し、図示しないベルトコンベアにより、スチーム洗浄機2へ搬送される。

図3に示すように、スチーム洗浄機2は、水平に延在する円筒状外殻21を備えている。円筒状外殻21はメッシュ製の下部21 aを備えている。円筒状外殻21内に21の両端には、開閉扉22a、22bが配設されている。円筒状外殻21内にメッシュ製の円筒状内殻23が配設されている。円筒状内殻23の内面には、螺旋状突起23aが取り付けられている。円筒状外殻21と円筒状内殻23との間に、複数の内殻支持ローラー24が配設されている。複数の内殻支持ローラー24中の特定のものは図示しないモーターにより回転駆動される駆動ローラーであり、他のものは従動ローラーである。

10

15

20

スチーム洗浄機2の開閉扉22aが開き、図示しないベルトコンベアにより搬送された植物性繊維質素材が、円筒状内殻23内に搬入される。開閉扉22aが閉じ、複数の内殻支持ローラー24中の特定の駆動ローラーが回転して、円筒状内殻23が回転する。螺旋状突起23aが回転し、植物性繊維質素材は開閉扉22bへ向けて搬送される。

150~180℃のスチームが、円筒状外殻21の開閉扉22a近傍部に形成された開口を介して円筒状外殻21に供給され、円筒状外殻21の開閉扉22b 近傍部に形成された開口を介して円筒状外殻21から排出される。スチームはメッシュ製の円筒状内殻23内に流入し、搬送中の植物性繊維質素材を洗浄殺菌すると共に、植物性繊維質素材の含水率を60~75重量%まで増加させる。スチームによって高温加熱されることにより、植物性繊維質素材中の酵素の働きが停止し、植物性繊維質素材の自然色が維持される。

植物性繊維質素材から除去された石、砂、ゴミ、植物性繊維質素材から滴下したが、 1 た水は、円筒状内殻23のメッシュと、円筒状外殻の下部21 a のメッシュとを介してスチーム洗浄機2から排出される。

植物性繊維質素材が開閉扉22bの近傍まで搬送されると、開閉扉22bが開

き、洗浄殺菌され加湿された植物性繊維質素材は、スチーム洗浄機2から排出される。スチーム洗浄機2から排出された植物性繊維質素材は、図示しないベルトコンベアにより、絞り機3へ搬送される。

図4に示すように、絞り機3は、ホッパー31と、ホッパー31の下端に接続されたエルボ32と、エルボ32の吐出口に接して配設された上ローラー33a、下ローラー33bとを備えている。下ローラー33bは図示しないモーターにより回転駆動される駆動ローラーであり、上ローラー33aは従動ローラーである。上ローラー33aは図示しない駆動装置により上下に駆動される。

5

20

25

図示しないベルトコンベアにより搬送された植物性繊維質素材は、絞り機3の ホッパー31に投入される。植物性繊維質素材は、エルボ32を通って、高速回転する上ローラー33aと下ローラー33bとの間に引き込まれ、加圧脱水される。含水率を60~75重量%まで増加させた植物性繊維質素材を一対のローラーに通して加圧脱水することにより、植物性繊維質素材は瞬時に含水率約35重量%まで脱水される。脱水された植物性繊維質素材は、絞り機3から排出される。 25 絞り機3から排出された板状の植物性繊維質素材は、図示しないベルトコンベアにより、乾燥機4~搬送される。

図5に示すように、乾燥機 4 は、水平に延在する円筒状外殻 4 1 を備えている。 円筒状外殻 4 1 の両端には入口 4 1 a と出口 4 1 b とが形成されている。円筒状外殻 4 1 内にメッシュ製の円筒状内殻 4 2 が配設されている。円筒状内殻 4 2 の両端には、円筒状外殻 4 1 の入口 4 1 a と出口 4 1 b とに対峙して、入口 4 2 a と出口 4 2 b とが形成されている。円筒状内殻 4 2 の内面には、螺旋状突起 4 2 c が取り付けられている。円筒状内殻 4 2 内に、入口 4 2 a に対峙して複数の攪拌腕が取り付けられた軸部材 4 3 が配設されている。軸部材 4 3 は円筒状内殻 4 2 と同軸に延在している。軸部材 4 3 は図示しない支持部材を介して円筒状内殻 4 2 に固定されている。円筒状外殻 4 1 と円筒状内殻 4 2 との間に、複数の内殻 支持ローラー 4 4 が配設されている。複数の内殻 支持ローラー 4 4 が配設されている。 従動ローラーである。

5

10

図示しないベルトコンベアにより搬送された板状の植物性繊維質素材が、円筒状外殻の入口41aと円筒状内殻の入口42aとを通って、円筒状内殻42内に搬入される。複数の内殻支持ローラー44中の特定の駆動ローラーが回転して、円筒状内殻42が回転する。軸部材43が円筒状内殻42と共に回転し、軸部材43に取り付けられた攪拌腕が回転し、板状の植物性繊維質素材は、円筒状内殻42に搬入される際にほぐされる。ほぐされた植物性繊維質素材は、回転する螺旋状突起42cにより、出口42bへ向けて搬送される。

250℃に加熱された空気が、円筒状外殻41の入口41 a 近傍部に形成された開口を介して円筒状外殻41に供給され、円筒状外殻41の出口41 b 近傍部に形成された開口を介して、150℃の排気となって円筒状外殻41から排出される。高温の空気がメッシュ製の円筒状内殻42内へ流入し、含水率約35重量%の植物性繊維質素材は、高温空気により短時間で、含水率約10重量%まで乾燥される。

15 含水率約10重量%まで乾燥された植物性繊維質素材は、円筒状内殻の出口4 2bと円筒状外殻41の出口41bとを通って、乾燥機4から排出される。乾燥 機4から排出された植物性繊維質素材は、円筒状外殻41の出口41bに対峙し て配設された、搬送パイプ5により粉砕機6へ搬送される。

図5に示すように、搬送パイプ5は、パイプ本体51と、パイプ本体51の内20 面に形成された螺旋状突起52と、パイプ本体51を回転駆動する図示しない駆動装置とを備えている。パイプ本体51が回転し、パイプ本体51と共に螺旋状突起52が回転することにより、パイプ本体51内の植物性繊維質素材が外気から遮断された状態で搬送される。植物性繊維質素材が外気から遮断されることにより、含水率約10重量%まで乾燥された植物性繊維質素材が搬送中に加湿される事態の発生が防止される。

図6に示すように、粉砕機6は、ホッパー61aと粉砕室61bと粉体吐出室61cとを有するケース61を備えている。粉砕室61b内に回転板62が収容

されている。複数の衝撃ピン63が、回転板62の両面外縁部に周列放射状に取り付けられている。複数の衝撃ピン64が、複数の衝撃ピン63に噛み合うように、周列放射状に粉砕室61bの囲壁に取り付けられている。回転板62の径方向外方に、環状メッシュ65が配設されている。回転板は図示しないモーターを介して回転駆動される。

5

10

15

20

25

搬送パイプ5により搬送された植物性繊維質素材は、ホッパー61 a に投入され、粉砕室61 b の中央部に搬入される。回転板62が回転し、回転板62から摩擦力を受けて植物性繊維質素材も回転する。回転に伴う遠心力により植物性繊維質素材は径方向外方へ移動する。回転板62の外縁部に到達した植物性繊維質素材は、衝撃ピン63、64から衝撃力を受けて粉砕され、植物性繊維質粉体となる。植物性繊維質素材に衝撃力が加わることにより、熱が発生する。(表面積/体積)の大きな植物性繊維質粉体は、衝撃で発生した熱により、短時間で含水率4~10重量%まで脱水される。含水率4~10重量%の植物性繊維質粉体は、環状メッシュ65を通過して粉体吐出室61cに流入する。粉体吐出室61cに流入した植物性繊維質粉体は、搬送パイプ5により、分級機7~搬送される。

図7に示すように、分級機7はホッパー71を備えている。直立した送風パイプ72aの上端部がホッパー71の傾斜した底壁を貫通してホッパー71内まで延びている。ホッパー71に隣接してサイクロン集塵機73が配設されている。ホッパー71の頂部から延びる送風パイプ72bがサイクロン集塵機73の上部に接線状に接続している。サイクロン集塵機73の頂部から延びる送風パイプ72cがフィルター74に接続している。フィルター74から延びる送風パイプ72dが遠心送風機75の吸入口に接続している。遠心送風機75の吐出口から延びる送風パイプ72aの下端に接続している。ホッパー71の下端から延びるパイプ76aが送風パイプ72aの下部に接続している。サイクロン集塵機73の下端から延びるパイプ76bが送風パイプ72aの下部に接続している。

遠心送風機75から吹き出した空気は、図7で実線矢印で示すように、送風パ

イプ72eを通って送風パイプ72aの下端に流入し、送風パイプ72aを上昇してホッパー71へ流入する。ホッパー71内を上昇した空気は、ホッパー71の頂部から送風パイプ72bを通って、サイクロン集塵機73の上部に接線状に流入する。サイクロン集塵機73へ流入した空気は、サイクロン集塵機73内を旋回した後、サイクロン集塵機73の頂部から送風パイプ72cを通って、フィルター74へ流入する。フィルター74へ流入した空気は、送風パイプ72dを通って遠心送風機75へ還流する。

搬送パイプ5により搬送された植物性繊維質粉体は、白抜き矢印で示すように、送風パイプ72aの下部に搬入される。送風パイプ72aを流れる上昇空気流に連行されて、植物性繊維質粉体は送風パイプ72a内を上昇し、ホッパー71に流入する。ホッパー71内で空気流速が低下することにより、植物性繊維質粉体が空気流から受ける浮力が低下する。植物性繊維質粉体中の粗大粒子が、一点鎖線の矢印で示すように、ホッパー71の下端へ向けて落下し、パイプ76aを通って送風パイプ72aの下部に還流する。植物性繊維質粉体中の微粒子は、白抜き矢印で示すように、ホッパー71の頂部から送風パイプ72bを通ってサイクロン集塵機73に流入する。

10

15

20

サイクロン集塵機 7 3 に流入した植物性繊維質粉体中の微粒子は、空気流と共に旋回する。旋回により発生する遠心力により、植物性繊維質粉体中の中程度の粗大粒子が、サイクロン集塵機 7 3 の側壁に衝突し、一点鎖線の矢印で示すように、側壁に沿って落下する。中程度の粗大粒子は、サイクロン集塵機 7 3 の下端からパイプ 7 6 b を通って送風パイプ 7 2 a の下部に還流する。植物性繊維質粉体中の微粒子は、白抜き矢印で示すように、サイクロン集塵機 7 3 の頂部から送風パイプ 7 2 c を通ってフィルター 7 4 に流入する。

フィルター74により植物性繊維質粉体が捕獲され、空気のみが送風パイプ7 25 2dを通って遠心送風機75に還流する。

ホッパー71とサイクロン集塵機73とによって、2段階に亘って分級され、 且つホッパー71内での上昇空気流の流速、ホッパー71の頂部までの上昇距離、 サイクロン集塵機 7 3 の仕様等が適正値に設定されることにより、粒度が 6 0 ~ 2 0 0 メッシュの植物性繊維質粉体のみが、効率良くフィルター 7 4 に捕獲される。含水率が 4 ~ 1 0 重量%の植物繊維質粉体を、外気から遮断した環境内で分級することにより、分級工程での植物繊維質粉体の加湿が防止される。フィルター 7 4 に捕獲された粒度が 6 0 ~ 2 0 0 メッシュで含水率が 4 ~ 1 0 重量%の植物繊維質粉体は、搬送パイプ 5 により混合機 8 ~搬送される。

混合機 8 において、含水率 4~10 重量%の植物性繊維質粉体と、澱粉粉体と ガム質粉体との混合粉体と、水とが混合されて、或いは、含水率 4~10 重量% の植物性繊維質粉体 2~17 重量部と植物性結合剤粉体 1 重量部とが混合され、 更に、当該混合物 3~9 重量部と水 1 重量部とが混合されて、射出成形に好適な 植物性繊維質成形材料が形成される。

10

15

20

25

上記植物性繊維質成形材料は、適度の粘度と適度の流動性とを備えており、射 出成形機のスクリューによって確実に搬送されるので、スクリューによる搬送性 を高めるための顆粒化等の予備成形を要さない。従って、前記植物性繊維質成形 材料は粉体のまま搬送パイプ5により搬送されて射出成形機9へ投入され、射出 成形により植物性繊維質成形体に最終成形される。植物性繊維質成形材料は、射 出成形機9のノズルから型へ射出される直前までは、湿った粉体であり所謂流動 体では無いが、射出される際に流動化して、型に隙間無く充填される。

射出成形機 9 のノズルから射出される際の植物性繊維質成形材料の温度は、 6  $0 \sim 1$  3 0  $\mathbb{C}$ 、好ましくは 7  $0 \sim 1$  1 0  $\mathbb{C}$  に制御される。植物性繊維質成形材料の温度が 6 0  $\mathbb{C}$  未満であると、澱粉が糊化せず、植物性繊維質成形材料の流動性が低下して充填不足を引き起こす。最悪、射出成形機 9 のノズルから植物性繊維質成形材料が射出されない場合もある。植物性繊維質成形材料の温度が 1 3 0  $\mathbb{C}$  を超えると、射出成形機 9 のノズルからの水蒸気噴出量が増加し、キャビティーの端部にガスが溜まり充填不足を引き起こす。植物性繊維質成形材料の温度範囲が 7  $0 \sim 1$  1 0  $\mathbb{C}$  であれば、必要量の植物性繊維質成形材料が射出成形機 9 のノズルから確実に射出され、且つキャビティーの端部にガスが溜まらないので、確

実に充填不足を防止できる。

5

成形温度が60~130℃の低温なので、成形温度が200~250℃の一般 的なプラスチック成形に比べて加工エネルギーが少ない。

植物性繊維質成形材料を、顆粒化等の予備成形工程を経ることなく、射出成形機9に直接投入することにより、従来のプラスチック成形材料では必要であった 顆粒化費用等の予備成形費用を節減できる。

絞り機3で含水率約35重量%まで脱水した植物性繊維質素材を乾燥機4を介することなく粉砕機6へ直接搬送して、粉砕乾燥させても良い。含水率が10~20重量%の植物性繊維質粉体が得られる。

- 10 ホッパー1内の含水率が40~50重量%の植物性繊維質素材を、スチーム乾燥機2、絞り機3、乾燥機4を介することなく粉砕機6へ直接搬送して、粉砕乾燥させても良い。含水率が10~20重量%の未殺菌の植物性繊維質粉体が得られる。殺菌を必要としない植物性繊維質成形体を成形する際には、含水率が10~20重量%の未殺菌の植物性繊維質粉体を使用することができる。
- 15 ホッパー71とサイクロン集塵機73とフィルター74とを有する分級機7を 用いて、含水率が10~20重量%の植物性繊維質粉体から粒度が60~200 メッシュの植物性繊維質粉体を効率良く分級することができる。植物性繊維質粉 体の含水率が20重量%を超えると、粉体粒子重量の増大により、ホッパー71 とサイクロン集塵機73とによる2段階分級の効率が低下し、植物性繊維質成形 20 体の量産が阻害される。

図8に示すように、モーター6a′と、先端に刃が形成されると共に基部が周 方向に互いに間隔を隔ててモーター6a′の出力軸に固定された複数の径向き刃 6b′と、径向き刃6b′の先端から微少隙間を隔てて配設され径向き刃6b′ を取り巻くメッシュ製の筒体6c′と、筒体6c′収容するケーシング6d′と 25 を有し、ケーシング6d′に入口開口6e′と出口開口6f′とが形成された粉 砕機6′を直列に複数接続し、最前段の粉砕機6′から最後段の粉砕機6′へ向 けて筒体6c′を形成するメッシュの小径穴寸法を順次減少させても良い。 モーター6a′を始動させると、径向き刃6b′が回転し、筒体6c′内に径方向外向きの空気流が形成される。自然乾燥させた含水率が40~50重量%の植物性繊維質素材を、入口開口6e′を介して最前段の粉砕機6′へ投入すると、前記空気流に連行されて、植物性繊維質素材は径向き刃6b′の先端へ向けて移動し、径向き刃6b′の先端に形成された刃で剪断されつつ、筒体6c′を形成するメッシュの小径穴に押し込まれて磨り潰され且つ剪断される。磨り潰され且つ剪断された植物性繊維質素材は、空気流に連行され、出口開口6f′を通って最前段の粉砕機6′から流出し、次段の粉砕機6′へ流入する。筒体6c′を形成するメッシュの小径穴寸法を順次減少させつつ最後段の粉砕機6′まで順次磨り潰しを繰り返すことにより、粒度が60~200メッシュの植物性繊維質粉体を得ることができる。磨り潰され且つ剪断される際の発熱と空気流への暴露とにより植物性繊維質粉体の含水率は4~20重量%まで低下する。

粉砕機6、6′に代えて、他の構造の粉砕機を使用しても良い。粉砕に伴う発熱によって植物性繊維質素材は乾燥する。

#### 15 実施例1:球状成形体の製造

5

10

20

25

ホッパー1から分級機7までの装置を用いて、杉の間伐材から粒度が60~200メッシュで、含水率が8重量%の植物性繊維質紛体を調製した。この粉体58重量部と植物性結合剤粉体17重量部との均一混合粉末を調製し、これに水を均一に25重量部加えて加湿して、混合機8で成形体原料を得た。植物性結合剤粉体としては、コーンスターチ97重量%,キサンタンガム2重量%およびタマリンドガム1重量%の混合物を用いた。

上記成形体原料を射出成形機の原料ホッパーから射出シリンダー内に投入した後、常法に従って金型内に成形体原料を押し出して直径 5 0 mm, 重さ72gの球状成形体を製造した。成形時射出圧力は103MPa, 金型の型締力1700KNで、脱型時間75秒にて行った。

この球状成形体を土中に埋めておいたところ、12週間後には崩壊していて 目視では確認できなかった。 実施例2: 汁椀の製造

10

ホッパー1から分級機7までの装置を用いて、竹から粒度が60~200メッシュで、含水率が5重量%の植物性繊維質紛体を調製した。この粉体63重量部と植物性結合剤粉体20重量部との均一混合粉末を調整し、これに水を均一に17重量部加えて加湿して、混合機8で成形体原料を得た。植物性結合剤粉体としては、コーンスターチ98重量%およびキサンタンガム2重量%の混合物を用いた。

上記成形体原料を射出成形機の原料ホッパーから射出シリンダー内に投入した後、常法に従って金型内に成形体原料を押し出して、重さ65gの汁椀を得た。成形時射出圧力は83MPa,金型の型締力1250KNで、脱型時間45秒にて行った。

この汁椀を土中に埋めておいたところ、3週間後には崩壊していて目視では 確認できなかった。

実施例3:ペンダントトップの製造

15 ホッパー1から分級機7までの装置を用いて、草から粒度が60~200メッシュで、含水率が7重量%の植物性繊維質紛体を調製した。この粉体73重量部と植物性結合剤粉体14重量部との均一混合粉末を調整し、これに水を均一に13重量部加えて加湿して、混合機8で成形体原料を得た。植物性結合剤粉体としては、馬鈴薯澱粉98重量%,キサンタンガム1重量%およびタマリンドガム1重量%の混合物を用いた。

上記成形体原料を射出成形機の原料ホッパーから射出シリンダー内に投入した後、常法に従って5個取りの星型金型内に成形体原料を押し出して、重さ各12gの星型ペンダントトップを得た。成形時射出圧力は83MPa,金型の型締力950KNで、脱型時間20秒にて行った。

25 このペンダントトップを土中に埋めておいたところ、2週間後には崩壊していて目視では確認できなかった。

実施例4:植木鉢の製造

ホッパー1内の含水率が40~50重量%の杉のオガ粉と檜のプレナー屑の混合物を、スチーム乾燥機2、絞り機3、乾燥機4を介することなく粉砕機6へ直接搬送して粉砕乾燥させ、含水率が10~20重量%の未殺菌の植物性繊維質粉体を調製した。ホッパー71とサイクロン集塵機73とフィルター74とを有する分級機7を用いて、前記植物性繊維質粉体から粒度が60~200メッシュで、含水率が13重量%の植物性繊維質粉体を調製した。この粉体69重量部と植物性結合剤粉体11重量部との均一混合粉末を調整し、これに水を均一に20重量部加えて加湿して、混合機8で成形体原料を得た。植物性結合剤粉体としては、小麦粉澱粉91重量%,キサンタンガム3重量%およびタマリンドガム6重量%の混合物を用いた。

上記成形体原料を射出成形機の原料ホッパーから射出シリンダー内に投入した後、常法に従って金型内に成形体原料を押し出して、重さ162gの植木鉢(深さ143mm、直径127mm)を得た。成形時射出圧力は160MPa,金型の型締力2000KNで、脱型時間90秒にて行った。

15 この植木鉢を土中に埋めておいたところ、10週間後には崩壊していて目視では確認できなかった。

実施例5:植木鉢の製造

5

10

20

25

ホッパー1内の含水率が40~50重量%の杉のオガ粉と檜のプレナー屑の混合物を、スチーム乾燥機2、絞り機3、乾燥機4を介することなく粉砕機6へ直接搬送して粉砕乾燥させ、含水率が10~20重量%の未殺菌の植物性繊維質粉体を調製した。ホッパー71とサイクロン集塵機73とフィルター74とを有する分級機7を用いて、前記植物性繊維質粉体から粒度が60~200メッシュで、含水率が13重量%の植物性繊維質粉体を調製した。この粉体65重量部と植物性結合剤粉体12重量部との均一混合粉末を調整し、これに水を均一に23重量部加えて加湿して、混合機8で成形体原料を得た。植物性結合剤粉体としては、馬鈴薯澱粉粉体だけを用いた。

上記成形体原料を射出成形機の原料ホッパーから射出シリンダー内に投入

した後、常法に従って金型内に成形体原料を押し出して、重さ168gの植木鉢(深さ143mm、直径127mm)を得た。成形時射出圧力は160MPa, 金型の型締力2000KNで、脱型時間90秒にて行った。

この植木鉢を土中に埋めておいたところ、10週間後には崩壊していて目視で 5 は確認できなかった。

実施例6:ボードの製造

ホッパー1内の含水率が40~50重量%の杉のオガ粉と檜のプレナー屑の 混合物を、スチーム乾燥機2、絞り機3、乾燥機4を介することなく粉砕機6へ 直接搬送して粉砕乾燥させ、含水率が10~20重量%の未殺菌の植物性繊維質 10 粉体を調製した。ホッパー71とサイクロン集塵機73とフィルター74とを有 する分級機7を用いて、前記植物性繊維質粉体から粒度が60~200メッシ ュで、含水率が8重量%の植物性繊維質粉体を調製した。この粉体62重量部 と植物性結合剤粉体15重量部との均一混合粉末を調整し、これに水を均一に 23重量部加えて加湿して、混合機8で成形体原料を得た。植物性結合剤粉体 15 としては、タピオカ澱粉94重量%、キサンタンガム2重量%およびタマリン ドガム4重量%の混合物を用いた。

上記成形体原料を押し出し成形機の原料ホッパーから加熱シリンダー内に投入した後、常法に従って加熱シリンダー先端に取り付けたボード成形用金型から押し出して、重さが280gのボード(厚さ8mm、幅60mm、長さ500mm)を得た。

このボードを土中に埋めておいたところ、2週間後には崩壊していて目視では 確認できなかった。

〔発明の産業上利用可能性〕

20

本発明に係る生分解性繊維質成形体の製造方法は、土中での分解時間が短く 25 地球環境への負担が少ない、且つ大量生産可能で安価な、生分解性繊維質成形 体の製造に好適である。

#### 請求の範囲

(1) 植物性繊維質粉体と、澱粉粉体とガム質粉体の混合物である植物性結合剤 粉体とを混合し、当該混合物と水を混合して植物性繊維質成形材料を形成し、当 該植物性繊維質成形材料を成形することを特徴とする生分解性繊維質成形体の製 造方法。

5

15

25

- (2)植物性繊維質粉体 2~17重量部と植物性結合剤粉体 1重量部とを混合し、 当該混合物 3~9重量部と水1重量部とを混合して植物性繊維質成形材料を形成 し、当該植物性繊維質成形材料を成形することを特徴とする生分解性繊維質成形 体の製造方法。
- 10 (3) 植物性結合剤粉体が、澱粉粉体であることを特徴とする請求の範囲第2項 に記載の生分解性繊維質成形体の製造方法。
  - (4) 植物性結合剤粉体が、澱粉粉体とガム質粉体の混合物であることを特徴と する請求の範囲第2項又は第3項に記載の生分解性繊維質成形体の製造方法。
  - (5) ガム質が、水溶性多糖類であることを特徴とする請求の範囲第1項又は第 4項に記載の生分解性繊維質成形体の製造方法。
    - (6) 水溶性多糖類が、キサンタンガム、タマリンドガム、ジェランガム、カラギーナン、プルラン、グアーガム、ローカストビーンガム、タラガム、ペクチン、アルギン酸および寒天から選ばれる1種又は2種以上であることを特徴とする請求の範囲第5項に記載の生分解性繊維質成形体の製造方法。
- 20 (7) 水溶性多糖類が、キサンタンガムおよびタマリンドガムから選ばれる1種 又は2種であることを特徴とする請求の範囲第5項に記載の生分解性繊維質成形 体の製造方法。
  - (8) 植物性繊維質粉体の粒度が、60~200メッシュであることを特徴とする請求の範囲第1項乃至第7項の何れか1項に記載の生分解性繊維質成形体の製造方法。
  - (9) 植物性繊維質粉体の含水率が 4~20重量%であることを特徴とする請求 の範囲第8項に記載の生分解性繊維質成形体の製造方法。

(10) 含水率が40~50重量%の植物性繊維質素材を150~180℃のスチームで洗浄殺菌し、加圧脱水し、加熱乾燥し、衝撃荷重を加え粉砕して、含水率が4~10重量%の植物性繊維質粉体を形成し、当該植物性繊維質粉体を、外気から遮断した環境内で、上昇空気流に混入して分級し、次いでサイクロン集塵機に導いて分級して、粒度が60~200メッシュで含水率が4~10重量%の植物性繊維質粉体を得ることを特徴とする請求の範囲第9項に記載の生分解性繊維質成形体の製造方法。

5

10

(11)含水率が40~50重量%の植物性繊維質素材を150~180℃のスチームで洗浄殺菌し、加圧脱水し、衝撃荷重を加え粉砕して、含水率が10~20重量%の植物性繊維質粉体を形成し、当該植物性繊維質粉体を、外気から遮断した環境内で、上昇空気流に混入して分級し、次いでサイクロン集塵機に導いて分級して、粒度が60~200メッシュで含水率が10~20重量%の植物性繊維質粉体を得ることを特徴とする請求の範囲第9項に記載の生分解性繊維質成形体の製造方法。

- 15 (12)含水率が40~50重量%の植物性繊維質素材を衝撃荷重を加え粉砕して含水率が10~20重量%の植物性繊維質粉体を形成し、当該植物性繊維質粉体を、外気から遮断した環境内で、上昇空気流に混入して分級し、次いでサイクロン集塵機に導いて分級して、粒度が60~200メッシュで含水率が10~20重量%の植物性繊維質粉体を得ることを特徴とする請求の範囲第9項に記載の生分解性繊維質成形体の製造方法。
  - (13)含水率が40~50重量%の植物性繊維質素材を磨り潰して、粒度が60~200メッシュで含水率が4~20重量%の植物性繊維質粉体を得ることを特徴とする請求の範囲第9項に記載の生分解性繊維質成形体の製造方法。
- (14) 植物性繊維質成形材料を60~130℃の温度で成形することを特徴と 25 する請求の範囲第1項至第13項の何れか1項に記載の生分解性繊維質成形体の 製造方法。
  - (15) 植物性繊維質成形材料を予備成形することなく、最終成形することを特

徴とする請求の範囲第1項乃至第14項の何れか1項に記載の生分解性繊維質成 形体の製造方法。

- (16) 植物性繊維質粉体と、澱粉粉体とガム質粉体との混合物である植物性結 合剤粉体と、水との混合物であることを特徴とする生分解性繊維質成形材料。
- 5 (17)植物性繊維質粉体と植物性結合剤粉体と水との混合物であって、植物性 結合剤粉体の重量が植物性繊維質粉体の重量の1/7~1/2であり、水の混合 量が混合物総重量の10~25%であることを特徴とする生分解性繊維質成形材 料。
- (18) 植物性結合剤粉体が、澱粉粉体であることを特徴とする請求の範囲第1 10 7項に記載の生分解性繊維質成形材料。
  - (19) 植物性結合剤粉体が、澱粉粉体とガム質粉体の混合物であることを特徴とする請求の範囲第17項又は第18項に記載の生分解性繊維質成形材料。
  - (20) ガム質が、水溶性多糖類であることを特徴とする請求の範囲第16項又は第19項に記載の生分解性繊維質成形材料。
- 15 (21) 水溶性多糖類が、キサンタンガム,タマリンドガム,ジェランガム,カラギーナン,プルラン,グアーガム,ローカストビーンガム,タラガム,ペクチン,アルギン酸および寒天から選ばれる1種又は2種以上であることを特徴とする請求の範囲第20項に記載の生分解性繊維質成形材料。
- (22)水溶性多糖類が、キサンタンガムおよびタマリンドガムから選ばれる1 20 種又は2種であることを特徴とする請求の範囲第20項に記載の生分解性繊維質 成形材料。
  - (23) 植物性繊維質粉体の粒度が、60~200メッシュであることを特徴とする請求の範囲第16項乃至第22項の何れか1項に記載の生分解性繊維質成形材料。
- 25 (24) 植物性繊維質粉体の含水率が4~20重量%であることを特徴とする請求の範囲第23項に記載の生分解性繊維質成形材料。

## 要 約 書

植物性繊維質粉体と、澱粉粉体とガム質粉体の混合物である植物性結合剤粉体とを混合し、当該混合物と水を混合して植物性繊維質成形材料を形成し、当該植物性繊維質成形材料を成形する。

図 1

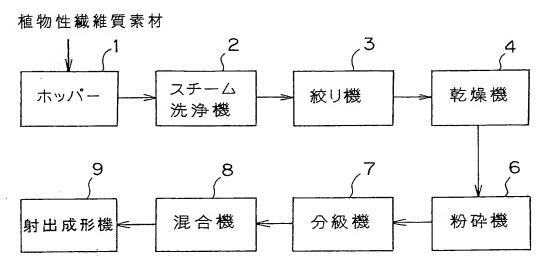
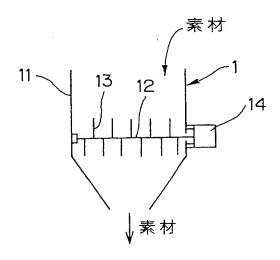
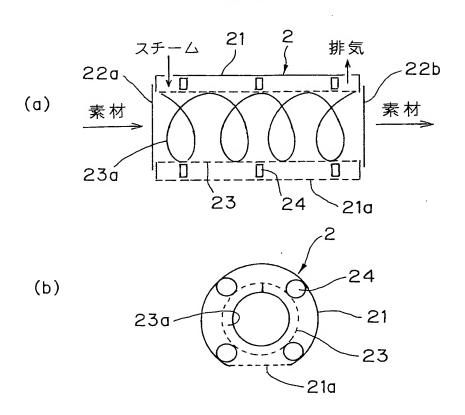
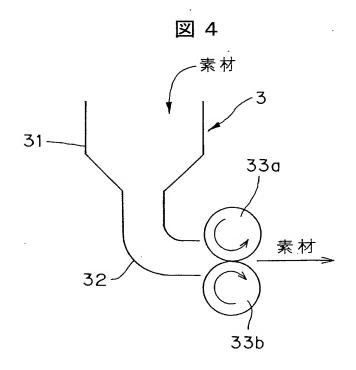


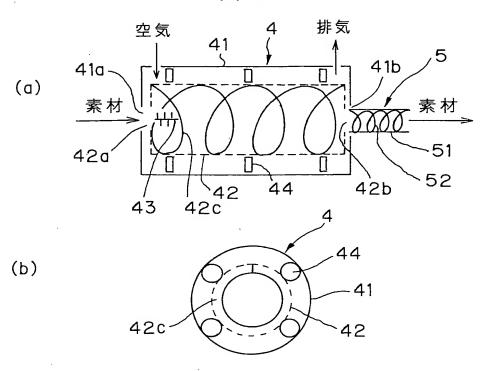
図 2











# 図 6

